

【在宅医療介護連携に関するアンケート】

設問1、①ご所属について

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
診療所医師	16	12.6%	14	11.8%	8	7.8%
病院の連携部門	20	15.7%	16	13.4%	21	20.6%
居宅介護支援事業者	25	19.7%	27	22.7%	35	34.3%
訪問看護ステーション	20	15.7%	17	14.3%	8	7.8%
地域包括支援センター	9	7.1%	23	19.3%	8	7.8%
行政職員	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
調剤薬局	18	14.2%	16	13.4%	15	14.7%
介護保険施設等	17	13.4%	6	5.0%	7	6.9%
その他	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
合計	127		119		102	

●コメント

アンケート回答者は増加傾向にある。昨年度と比べると回答者は6.7%増加している。

②仕事のやりがいについて(満足度)【R5年度新設項目】

		令和6年度		(参考)令和5年度	
		回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても感じる	1	26	20.5%	27	22.9%
↑ ↓	2	54	42.5%	45	38.1%
	3	34	26.8%	37	31.4%
	4	12	9.4%	7	5.9%
まったく感じない	5	1	0.8%	2	1.7%
合計		127		118	

●コメント

昨年度同様やりがいを感じる(1.2)回答者が60%を超える内容となっている。一方でやりがいを感じない(4.5)回答者は2.4%ではあるが若干増加している。

設問2、三田市の連携について

①三田市の多職種・事業所間の連携のしやすさの総評について

		令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
		回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい	1	9	7.1%	8	6.7%	5	4.9%
↑ ↓	2	39	30.7%	26	21.8%	36	35.3%
	3	56	44.1%	67	56.3%	46	45.1%
	4	17	13.4%	14	11.8%	11	10.8%
とても連携ににくい	5	6	4.7%	4	3.4%	4	3.9%
合計		127		119		102	

●コメント

連携をしやすい(1.2)回答者は昨年度より9.5%増加している。連携をしにくい(4.5)回答者は3.8%増加している

②全体的に連携のとりにくさを感じる連携先について

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
診療所	26	14.7%	36	21.2%	25	19.5%
病院	65	36.7%	63	37.1%	45	35.2%
老健、特養	18	10.2%	11	6.5%	11	8.6%
訪問看護ステーション	10	5.6%	6	3.5%	5	3.9%
地域包括支援センター	13	7.3%	7	4.1%	10	7.8%
居宅介護支援事業者	7	4.0%	13	7.6%	7	5.5%
行政	35	19.8%	33	19.4%	22	17.2%
その他	3	1.7%	1	0.6%	3	2.3%
合計	177		170		128	

●コメント

昨年度の回答割合は①病院・②行政・③診療所・④居宅介護支援事業所・⑤老健、特養の順に多くなっていたが、今年度の回答割合は①病院・②行政・③診療所・④老健、特養・⑤地域包括支援センターの順に多くなっている。

上位1~3の順は変わらないが4~5の順に関して変動が見られた。

③日常療養生活の支援場面の多職種・事業所間の連携について

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい 1	9	7.1%	6	5.0%	6	6.1%
↑ ↓	2	30.2%	25	21.0%	39	39.4%
	3	51.6%	74	62.2%	42	42.4%
	4	10.3%	12	10.1%	8	8.1%
連携しにくい 5	1	0.8%	2	1.7%	4	4.0%
合計	126		119		99	

④入退院支援場面の多職種・事業所間の連携について

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
とても連携しやすい 1	6	4.8%	7	5.9%	6	6.0%
↑ ↓	2	27.8%	29	24.4%	34	34.0%
	3	42.9%	56	47.1%	42	42.0%
	4	20.6%	17	14.3%	11	11.0%
連携しにくい 5	5	4.0%	10	8.4%	7	7.0%
合計	126		119		100	

⑤患者や利用者の急変時の多職種・事業所間の連携について

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度		
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	
とても連携しやすい 1	6	4.8%	7	5.9%	5	5.0%	
↑	2	41	32.5%	25	21.2%	26	26.0%
	3	43	34.1%	63	53.4%	49	49.0%
↓	4	31	24.6%	19	16.1%	12	12.0%
連携しにくい 5	5	4.0%	4	3.4%	8	8.0%	
合計	126		118		100		

⑥人生の最終段階場面の多職種・事業所間の連携について

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度		
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	
とても連携しやすい 1	10	7.9%	11	9.3%	6	6.1%	
↑	2	38	30.2%	26	22.0%	30	30.3%
	3	54	42.9%	59	50.0%	47	47.5%
↓	4	19	15.1%	19	16.1%	11	11.1%
連携しにくい 5	5	4.0%	3	2.5%	5	5.1%	
合計	126		118		99		

●設問2-③～⑥ 4項目の連携場面についてのコメント

・4項目すべての回答で3の回答者数が前年度より減少している。専門職の連携に対する関心が高まっていると考える。

・「人生の最終段階場面」で連携をしやすい(1, 2)の回答者は6.7%増加している。また「急変時の連携場面」について(1, 2)の回答者は10.9%増加している。

設問3、三田市在宅医療・介護連携支援センターのホームページについて

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
活用できている	13	10.2%	9	7.6%	9	8.8%
知っているが活用できていない	85	66.9%	88	73.9%	73	71.6%
知らない	29	22.8%	22	18.5%	20	19.6%
合計	127		119		102	

※以下、病院連携部門、居宅介護支援事業者、地域包括支援センターの方のみ回答

設問1、三田市入退院支援ルールについて

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
実践できている	33	61.1%	24	36.4%	26	40.6%
ルールを意識していないが、円滑な連携に努めている	13	24.1%	26	39.4%	27	42.2%
あまり実践できていない	3	5.6%	10	15.2%	8	12.5%
三田市入退院支援ルールを知らない	5	9.3%	6	9.1%	3	4.7%
合計	54		66		64	

●コメント

・「実施できている」と回答した方の割合が増加している。「実施出来ていない」「ルールを知らない」と回答した方の割合は減少している。

設問2、入院時情報提供シートの活用状況について

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
活用できている	39	72.2%	42	63.6%	44	69.8%
独自のシートを使用している	9	16.7%	8	12.1%	8	12.7%
あまり活用できていない	5	9.3%	13	19.7%	10	15.9%
入院時情報提供シートを知らない	1	1.9%	3	4.5%	1	1.6%
合計	54		66		63	

参考) 同質問についての「居宅介護支援事業者」の回答

	令和6年度		(参考)令和5年度		(参考)令和4年度	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
活用できている	19	76.0%	25	92.6%	26	74.3%
独自のシートを使用している	6	24.0%	2	7.4%	8	22.9%
あまり活用できていない	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%
入院時情報提供シートを知らない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	25		27		35	

●コメント

・全体的には「あまり活用できていない」「入院時情報提供シートを知らない」と答えた割合は減少している。
 ・居宅介護支援事業者のシートの活用については、「活用できている」「独自のシートを使用している」と回答された方が90%を超えている。

●アンケートの総評

全体的に3の中立的な意見の割合が減少している。その結果1および2といった連携しやすいと考える回答割合が全体的に増加傾向にある。4および5といった連携しにくいと考える回答割合も増加しているが、1、2の回答割合よりは増加傾向にはないことから総合的に連携をしやすいと考える専門職は増加していると推察する。また連携のとりにくさを感じる事業所についても割合的には大きな変化はないが今後高齢化に伴い施設入所者を担当する事業所との医療介護連携は今後より一層必要になってくると考える。
 入退院支援ルールの実践状況や入院時情報提供シートの活用状況からも、市内での在宅医療・介護連携の施策が、現場の医療介護関係者の負担感を十分に軽減させた実感できるまでに至っていないと考えられる。

設問3、入退院支援ルールおよび入院時情報提供シートについてのご意見、ご要望

【入退院支援ルールについてのご意見、ご要望】

病院によっては、要支援の方は電話のみで情報提供でも退院時に看護サマリー頂けるのですが、電話ではサマリーをお渡しできないという病院があります。電話での情報提供でもよいと統一してもらいたいです。

特にありません。

転院された連絡がない時がある。リハビリ病院から連絡がありわかった事もある。

入院時からお互いの担当が確認できて安心しています。

入院時情報提供すると、退院時間後サマリーを出して下さるので助かっています。

今後は外来患者の連携強化も検討したいと考えています。今後もよい連携につとめたいと思います。

円滑に連携できるためのルールだと思えます。

日常診療に追われ、介護支援は受身的になっているのが実情です。

殆ど症例が乏しい。

三田市の病院だけでなく、近隣の市の総合病院にも情報共有できるように、シートについて、広めてもらえたら嬉しいです

手書きの時の記入漏れ、修正されていないことがあります。

入院前の情報が理解しやすい(シート)

急性期病院から情報として頂いた場合に参考にしている。(回復期転院時に改めていただくことはない)(シート)

定着している。活用している。

特に問題は感じません。(他1名)

【入院時情報提供シートについてのご意見・ご要望】

2ページ目の一番下、その他を大きくして、医療側に、伝えておきたいこと箇条書きできたらいいと思えます。私がMSWのときは、使っていたサービス、その他にケアマネが書いてくれた内容、キーパーソンが分かればいい、と思っていました。三田市版は項目が多すぎる気がします。項目が多すぎると、ケアマネさんは迅速には病院に送れません。入院前のADLは優先順位低いと思えます。退院までにかつてのADLになるかは不明だからなくてもいいのでは？

時間がない時は事業所独自のフェースシートを送付しています。内容が多いため、いちからの作成に時間がかかる。サマリーも含めてメールでの送受信ができるようになればいいと思う。

使用していますが書きにくいです。

三田市外の病院には独自のシートで送っています。

できるだけ簡潔なものだとありがたい。

いただいた情報提供シートは活用している。地域で統一できればよいが、施設機能によって求められる情報が異なることがあるため、難しい

以前のものより記入しやすくなった

独自のシートを作っていますが、同じ内容を網羅しています。

基本情報と重なる部分が多いので、事業所作成のシートを私用しています。

入院前の情報には患者の生活背景がよくわかり退院支援をする上で活用しております。

特に問題ありません(他2名)

【主なご意見への回答】

・Q1:入院時の情報提供および入院時情報提供シートについて

A1:入院時情報提供シートは、MSW、看護師、リハビリ職、栄養士などの専門職が本人の生活状況や住環境だけでなく、本人のパーソナリティ、家族背景、医療・ケアに対する考え方なども含めて情報共有することにより、医療・介護を要する本人の療養生活が円滑に移行できることを目的としています。各専門職で重要視する項目は異なるかもしれませんが、支援者同士の情報連携へのご協力をよろしく願います。様式につきましては適宜修正はしておりますが、万人が使いやすいということは難しいと思えます。ですので、三田市役所のホームページにてExcel式で配布しております様式を、アレンジして使用いただくよう願います。シートはあくまで参考様式として使用し、項目が満たされておれば他のシートをご利用いただいても問題ありません。当然、不足分や記載が間に合わない時は、面談などして口頭で補うことも問題ありません。電話連絡のみの情報提供の統一につきましては各病院の体制や情報共有の仕方に違いがある為現時点では難しいと考えます。

・Q2:退院や転院の連絡がない、退院日の連絡がないことについて

A2:入院患者の方に、医療機関の地域連携室が介入していない場合には、連絡が難しいこともあります。また時間帯によっては地域連携室が対応できないこともありますので、急な対応で在宅支援者が困られることもあるかと思えますが、ご理解のほどよろしく願います。

・Q3：市外に対しての連携・シートの周知について

A3：近隣にはすでに独自の入退院調整ルールが存在しているところも多くあります。そのためすぐにシートの統一は難しいと考えますが生活圏をまたぎ入院をするケースが多くルールの統一もしくは類似ルールといった事も今後協議できるよう努めてまいります。他市に入院される際は事前に送る前に連絡などしていただき、情報提供をお願いいたします。

・Q4：メールでの送受信(ICT活用)について

A4：ICTの活用は推奨されていますが、コスト面や操作性、セキュリティ面等各事業所の判断になる為、統一した方法というのは難しいと考えます。しかし、情報連携は、これからの医療介護連携にとって重要な項目だと考えますので、情報共有部会内で検討出来るよう努力していきます。

この度は、皆様お忙しい中を当該アンケートにご協力いただきありがとうございました。